

宮城学院女子大学

Partir

[パルティール]

VOL. 16

2013.10

あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



01 誌上ゼミ

コミュニケーションとしての
食事・食事作り

05 学問へのいざない

「教え方と情熱」を学ぶ
「人を幸せにする建築」を学ぶ

07 特集

仲間といっしょに笑顔のキャンパスライフ
宮城学院女子大学さくら寮

09 ACTION

学ぶことの楽しさを
地域の皆さんへ!

11 My way MG way

卒業生の仕事場訪問

13 サークル紹介

14 CAMPUS NEWS

15 学長エッセイ

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支え、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。



コミュニケーションとしての 食事・食事作り

実際の取り組みをもとにした「共食」の研究

各自の研究テーマで
どのようなコミュニケーションに
出会ったかを発表

平本 私たちのゼミでは「食育」というものを
食事作りで進めています。今日は特
にコミュニケーションという観点でディスカッ
ションを行ってみたいと思います。



平本 福子教授

有田 メニューの開発におけるコミュニケーションを研究しています。オープンキャンパスで提供するランチメニューを考えたのですが、人と人との関わりはもちろん、サンドウィッチという商品に載せて、宮城学院らしさというメッセージを伝えることができたのもコミュニケーションの一つではないかと感じました。

平本 メッセージは伝わりましたか？

有田 アンケートの結果を見て、評判が良く、女子大生らしい華やかさが伝わり、イメージアップにもつながったと思います。



食品栄養学科 平本 福子教授

学生
荒井咲香さん、熊谷ひとみさん、
高橋ゆり香さん、新井香菜さん、
有田潤さん、宍戸香月さん、
武内真理さん、佐藤弘実さん、
大沼有紗さん、鈴木利枝子さん、
馬場愛季穂さん



平本ゼミでは、食事作りを通してどのようなコミュニケーションが生まれるのかについて研究しています。



ます。

宍戸 また野菜スイーツを開発して学食で販売することを考えています。おいしいモノを届けるということもそうですが、野菜スイーツという話題性や健康志向というメッセージを共有してもらおうことで、コミュニケーションが広がるのではと考えています。

【お父さんと「ミニケーション」】

高橋 私たちは「共食」を研究テーマに、親世代の男性を対象に料理教室を開催しています。家族みんなで食べたり、一緒に食事を作るきっかけづくりになればいいなと思っています。

新井 料理教室の中で春巻作りをしました。普段息子さんと会話の少ないお父さんが自信を持ち、「母の日に何か作るか？」と会話が弾んだという事例も聞きました。食事作りは会話を促進する効果があると思っています。

平本 想定した以上に家族をつなげていますね。私自身も驚いています。

【韓国料理で「ミニケーション」】

熊谷 最近若い女の人の野菜不足が問題になっています。そこで浮かんだのが韓国

料理。野菜でご飯やお肉を包むサムという食べ方があるのですが、たくさん野菜が摂取できます。野菜摂取文化が進んでいる韓国料理を日本に取り入れることがいいのではと研究しています。

平本 サムでみんながパーティーしたら、手巻き寿司のように「ミニケーション」も広がるかも知れませんね。

【教える・教わる「ミニケーション」】

馬場 私たちは食事作りを通して子どもたちの主体性がどのように生まれるかを研究しています。地域の小学校の高学年を中心に毎月テーマを決めて、子どもたち自身が主体となってメニューなどを考えてもらっています。

荒井 低学年に包丁の使い方を教えるなど、他学年との交流が生まれています。また普段接することのないお年寄りに調理の方法を教えるもったりと、地域での交流も生まれています。

平本 重要なのは子どもたちの主体的な発信ですね。

【生産者と消費者をつなぐ「ミニケーション」】

大沼 大学のカフェを運営してきました。野菜を十分に摂取できるヘルシーな料理を提供し、女子大生の健康意識と伝統

を



宍戸香月さん



有田潤さん



熊谷ひとみさん



新井香菜さん



的な地域の食に関心を高めてもらう取組みをしています。

鈴木 生産者と消費者をつなぐことを研究しています。宮城県の農家さんや宮城県農業高等学校のお米などを購入させていただいてランチとして提供。生産者についてのリーフレットも作成して配布するなど、生産者のことを知っていただく取り組みをしています。

大沼 伝統料理ということでも最初の方は苦戦しましたが、メニューを工夫していくことで定着してきました。

平本 伝統的な料理を若い世代に伝えることは難しいですね。

鈴木 すべて伝統的な料理ではなく現代的なものも組み合わせる工夫も必要だと感じています。

「子どもたちとコミュニケーション」

佐藤 小学校低学年を対象としたランチ



大沼有紗さん



鈴木利枝子さん

作り隊を実施しました。人見知りだった子どもたちが、食事作りを通して自分から進んで会話をするようになります。実際の行動を重ねていってコミュニケーションが作られるのだと感じました。「おうちでも作りたい」という子どもが増え、家族での

コミュニケーションを作り出すことができたのではないかと思います。

ただ、親が忙しくて、一緒に食事作りができない子どももいるようで、そこが問題ですが…。

平本 なかなか難しいですが、めげずに頑張らしましょう。

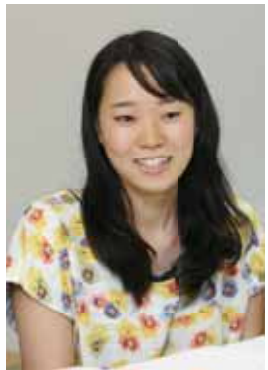
「ケータリングでコミュニケーション」

武内 自分たちでケータリング運営システムを立ち上げ研究しています。地域のお年寄りの集まりに提供することもあり、「楽しみにしてるよ」と言われます。

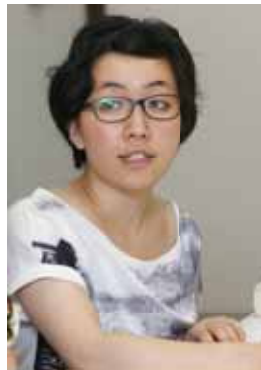
同じお弁当を食べることで会話が広がりますし、普段食べない食材や作り方をすることで「知らなかったわ」とコミュニケーションが弾むということも発見できました。

平本 経営の勉強にもなっていますね。

武内 原価率を計算したり、利益を考え



佐藤弘実さん



武内真理さん



荒井咲香さん



たり。継続してやっていくためには採算をとらねばならないことを痛感しています。みんなのお給料も払わないといけないし……。

「そもそも人間は共食する生き物か」「一緒に作ることは食べることで何が異なるか？」

平本 それぞれの立場から食事・食事作りにおけるコミュニケーションについて話し合いました。ここで「人類はそもそも共食する生き物なのか？」というのを考えてみましょう。

魚は3日目にひとりで餌をとるようになりますが、人間は生まれてすぐ食べることでができませんね。また老人になると介護とかケアとか必要となります。人間は基本的にひとりですべていく力を持たない生き物です。

高橋 「共食」しないと生きていけない動物なんですね。



高橋ゆり香さん



馬場愛季穂さん

平本 「共食」は、人間の本質に関わることなのかも知れませんね。

改めて「共食」の定義を考えてみると、家族や仲間と一緒に作ることも、食べることにして話をするだけでも「共食」だと言えます。食事を作ることもメニューを

考えるとところから食材の入手、料理作り、後片付けまでありますね。

それでは、皆さんに考えてもらいたいのですが、そもそも一緒に作ることに一緒に食べることは何が違うのでしょうか？

荒井 ワタシが作ったんだよという満足感が大きいですね。子どもを褒めたりすると自信につながります。

大沼 「トマト切ってくれたんだよね」と褒めるとトマト嫌いな子も食べられるようになりました。

平本 一緒に作ることの教育的効果は興味深いですね。

高橋 パパの十八番ということで料理教室をしました。いつもは食べるだけのパパも胸を張って話ができます。

新井 会話作りのきっかけになります。パパもできるんだ、パパが作ってくれたから、と会話が生まれます。

熊谷 お父さんが作ってくれたら、私だったら大切に食べます。ありがとうございます。

ます。

馬場 この前バーベキューをしたのですが、火をおこしたり、流しそうめんを自分たちで作ったり。準備の段階で一致団結して、楽しかったです。

鈴木 一緒に食事を作るとなればコミュニケーションの時間も必然的に長くなりますよね。

平本 食べる時は黙々と食べられるけれど、料理はコミュニケーションをとらないと作れないですね。この「やらざるを得ない」という感覚は大切だと思います。震災の時、元気のない学生と一緒に料理を作りました。つらくても会話しながら料理しなくては行けない。自然と元気になってきましたね。

「食べる」を超えて「作る」ことには何かあるのではと思っています。皆さんの気持ちを集めて、食事作りでのつながりというものを深めていきたいと思っています。





「教え方と情熱」を学ぶ

児童教育学科 生野桂子 教授



**生活を考える家政学をもとに
教育の原点を見つめている**

家族論や家庭経営論などの家政学と、それをバックグラウンドにもつ家庭科教育法、生活科教育法などを専門としています。

家族論、家庭経営論では、家族にとって大切な機能とは何かについて、また、家族員の幸福追求のための家庭経営のあり方について研究しています。

教育法では、教員となるための教科教育の目的や内容、方法について、現場教育と連携しながら研究を進めています。質の高い教員を養成することを目指しているのです。

さらに、教育とは何かという根本的な原理について、教育学の歴史も含めて体系的に学ぶ教育原理、また、教育のカリキュラムや評価を学び、より良いあり方について考える教育課程論など、教育学の基本となる分野を専門としています。

今後は、家族論・消費者教育研究、米国ミドル・スクールを中心としたカリキュラム研究、教員養成カリキュラムのカリキュラム評価研究などを自身の研究として進めていきたいと思っています。

**教育的情熱と実践的指導力を持つ
教員を育てたい**

大学で学生に教えるにあたり大切にし

ていることは、教育的情熱と実践的指導力を持つ教員を育てることです。私が考える理想的な児童教育は、一人一人の児童の能力を伸ばすことで、自己効力感と学習達成感を与え、人格の完成に寄与するものです。

学びは、一人一人の中で成就するものです。ありがちなのが、児童や生徒の前で教えたつもりになってしまふことです。このことは常に反省し、振り返ることが必要です。

宮城学院は、少人数クラスによる指導体制があること、学生と教員との心理的距離が近いことなど教育、学ぶ環境としての魅力があります。自学するためのスペースが豊かであることや、共に学び合う雰囲気があることも、大学として誇れることです。

ぜひ、この素晴らしい教育環境の中で、教育的情熱と実践的指導力を持つ若い教員を育てていきたいと考えています。

Profile

鹿児島県出身。上智大学大学院博士後期課程満期退学。鹿児島大学教育学部助教授・教授等を経て2012年より現職へ。

○信条「学びは学習者個々人において成立する。」

私のおすすめ本

教育の過程

J.S. ブルーナー著／
鈴木祥蔵・佐藤三郎訳

「教育の過程」は、教育の現代化に影響を与えた名著。この理論により教育が飛躍的に進化したと言われていました。「家族」は、家族の機能がどんどん外部化する現代において、家族とは何かという根幹に関わることを考えさせてくれる本です。

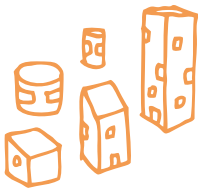
家族

T.パウルズ R.F.パウルズ著／
橋爪真雄他訳



これが学びのツボ!

まずは実行する、形にするなどを心掛けることです。例えば、本を読んだらまとめる、行事に参加したらそのことについて記す、感想を記録するなど。記憶や感動も時とともに曖昧になって薄れていくものです。



「人を幸せにする建築」を学ぶ

生活文化デザイン学科 須田真史 准教授

どんなニーズを持つているのか？
使う人の視点で病院建築を考える

建築デザイン論、建築計画を専門にしています。中心となるのは病院建築。規模が大きいものが多く、東京ドーム何個分というものもあります。

建築計画とは、設計条件を整理することで、それぞれの建築の状況に即して細かく検討していきます。病院は、多くの方が関わっているのが特徴です。患者や医療スタッフなどいろいろな立場の方々の建築への関わり方を行動観察調査などで精査し、建築を使う人の視点を設計に活かしていきます。

病院が他の建築と決定的に違うことは、「24時間365日、中で生活している人がいる」ことです。快適に早く治っていたらいい、安全で安心できる建築を設計するよう心がけています。

今後、病院建築は医療の変化により変わってきます。例えば、IT化で電子カルテの導入が進み、看護師がナースステーションに戻る必要がなくなっています。病室の近くにナースが常駐するスペースがある病院も登場してきていて、設計の考え方がダイナミックに変わるかも知れません。

卒業設計を通して学生に指導
設計のヒントは現場から学ぶ

学生には卒業設計などで現場に即した設計指導を行っています。造りたい建築が決まると、それを計画する敷地や同種の建築を見に行くようにしています。建築には必ずそれを使う人がいます。中々どんな人たちがどのように過ごしているのかを知らないで設計できないからです。学生には常に「自分の頭の中だけで考えるな。現場で学べ」と言っています。

設計には決まったつの答えがあるわけがありません。つ案が完成しても、さらにB案C案といういろいろな可能性を検討できる柔軟さと粘り強さを持ってもらいたいです。生活文化デザイン学科では、家族学や女性学など生活に関係する知識を多岐に学ぶことができます。生活を幅広く学びながら建築を学ぶことはとてもいいことだと思います。

建築は人を幸せにする力を持っています。大変ですが、やりがいがある仕事だと学生に伝えていきたいと思っています。



Profile

神奈川県出身。東京大学大学院修了。博士（工学）。一級建築士。2007年より現職。専門は建築デザイン論・建築計画。癒しの環境をテーマに研究・設計活動を行っている。

○信条「建築は人を幸せにする」

私のおすすめ本

新建築（新建築社発行）

最新の建築や様々なトピックスを紹介する建築総合専門誌です。建築を学ぶ上でいろいろな建築を実際に見ることが大切ですが、限界がありますので、こうした雑誌で数多くの建築を知ることだけでも有意義だと思います。



これが学びのツボ！

建築設計は頭で考えているだけでは、決まてできません。身体を動かして造りながら考えていくことによって上達していくものです。やればやるほどうまくなる、やらないと下手になる、スポーツととてもよく似ています。

仲間といっしょに笑顔のキャンパスライフ

宮城学院女子大学さくら寮

見晴らしのよい桜ヶ丘2丁目の高台にある宮城学院女子大学さくら寮。4階建160室。各個室にはバス・トイレ・家具・エアコンが完備。快適な毎日過ごすことができます。そして、自習や学習会もできる11ヵ所の共有LDK、セミナー室、防音学習室(ピアノ練習等)、ランドリーなど充実の共有設備。仲間たちとの楽しいふれあいの輪も広がり、キャンパスライフを楽しく快適に後押ししてくれています。今回は、元気いっぱい寮生活を楽しむ寮生6名にさくら寮の今についてインタビューしました。



寮があるから選んだという人も…

奈村 160人が一緒に生活する寮の寮長をさせていたでるんですが、やっぱりたくさんのお先輩と話をすることもできるし、寮は楽しいですね。寮があるから宮城学院を選んだという人も多いのではないのでしょうか？

鈴木 親元を離れて暮らしたことがなかったので、寮生活にあこがれていました。ワルルームにバス・トイレ・家具もついていて快適な生活を送っています。

稲山 セキュリティもしっかりしているし、仲間もいるので、とても過ごしやすいです。実家の親も安心していると思います。

後藤 学校に近いのでうれしいです。徒歩で10分ちょっと。自転車だったら5分くらいです。



日本文学科2年
千葉静
岩手県出身



国際文化学科1年
後藤鴻実
岩手県出身

千葉 前の寮は共同のお風呂や2人部屋で、それはそれで楽しかったのですが、やっぱりプライベートは大切にしたいので、今の寮は気に入っています。

みんなで食べるのが楽しい！

後藤 食堂では、月曜から土曜日まで朝食・夕食をとることができるのでとても助かります。料理はボリュームがあつて、とても満足しています(笑)。

鈴木 夕食は6時半から9時の間の好きな時間に友だちと食べることがするのが楽しいです。

奈村 月に一回バイキングがあるのがいいですね。はじめにワンプレートに盛りだくさん、さらに好きなものを好きなだけ食べられるというシステムです。好きなだけご飯が食べられるのでいい(笑)。

稲山 バイキングまた食べたことないです(笑)。

奈村 えー私は献立見てこの日がバイキングだつて楽しみにしています(笑)。ケーキもあるんですよ。



人間化学科1年
稲山 さゆり
福島県出身

稲山 ランドリーもあり、洗濯から乾燥まで一気にできるので、とても便利です。

サークル、バイト…：学生生活を満喫

小熊 キャンパスが近いのでサークル活動にも力を入れていきます。私は競技ダンスをやっています。

鈴木 私は、学食プロジェクトに参加しています。とても充実していますね。

後藤 休日は仙台の街中にショッピングに気軽に行けるのもいいです。バスを使つて20分で街の中心に出られます。

鈴木 仙台の街中でアルバイトができるので助かります。バスの本数も多いので、乗り過しても安心です。

千葉 門限が11時。仙台市街からだとも10時半位のバスで間に合うのでとても助かっていますね。



食品栄養科1年
鈴木 咲絵
福島県出身

イベントなどの交流会も

奈村 年間行事もたくさんあります。4月には新入生歓迎会もあります。

小熊 大学祭の準備なども共有スペースでできるので、とても楽しいですね。

奈村 11月には地域との交流ということで町内会の方々をお呼びして寮祭をしようと計画しています。寮の運営委員会のミーティングで決めました。現在、具体的な内容を詰めています。

千葉 運営委員会には私も後期から入ろうと立候補しました。経験を活かして頑張ろうかなと思っています。

学業にも集中できる環境

稲山 この寮には、全学科の学生が入寮しています。

す。それぞれの学科のことを、いろいろと情報交換ができて、とても刺激になります。

後藤 勉強のことや、テストのことを先輩から聞けたりして助かっています(笑)。

小熊 個室でもネット環境が整いますし、セミナー室にもネット環境があるので資料収集をする時などとても便利です。

千葉 共有LDKでは、勉強がはかどります。食堂も夜中の1時まで空いているので、集中して勉強に励むことができます。同じ学科でなくても教職を取つて、一緒に勉強することもあります。

奈村 やっぱ大学の寮なので、学業に集中できる環境にあるのはいいですね。もともと充実した学生生活ができるよう、寮長として頑張りたいと思います。

共用施設など充実の生活環境

小熊 自由に利用できる共有LDKが11ヶ所あるのでいいですね。

奈村 ブロックに分かれているので、そのブロックごとにお好み焼きパーティーをしたり、鍋をしたり。お弁当の作りだめなども楽しんでいます。

稲山 友だちと女子会と称してパーティー。スパーにみんなで買い物に行くのも楽しいですね。近くにスパーがあるのでとても便利です。

鈴木 友だちを呼ぶこともできるのですが、みんな建物の中を見て、キレイだねと驚いています。

千葉 共用部の掃除は寮職員の方がしてくれるのでとてもキレイ。各自で使うところはもちろん自分たちで掃除しています。



生活文化デザイン学科2年
小熊 美咲
秋田県出身



発達臨床学科3年
奈村 美里
千葉県出身

学ぶことの楽しさを
地域の皆さんへ!

Action

「学ぶことは楽しいよね。」

子どもたちの笑顔を見ていると
ここからそう思えてきます。

学生だからこそ、胸を張って
学ぶ楽しさを地域に発信しています。

心理行動科学科

2013年度夏の「ミニコロサイコロ」を開催 学問の面白さを伝えていきます!

夏の「ミニコロサイコロ」は心理行動科学科2年生が1年次に研究した成果を、東北各地で広く一般の皆様にご覧いただく企画です。

今年度は8月10日(土)・11日(日)に山形県生涯学習センター遊学館にて「介護職員のコロ」について、8月31日(土)・9月1日(日)には福島市アクティブニアセンタール・AONにて「無意識を科学する」、盛岡市のイオンモール盛岡南では「続・義援金を寄付する心理」の発表を行いました。



参加した学生は、一般の方に分達の研究を発表することで、大学で学ぶ意味を改めて実感したようです。また、心理学という学問の面白さを伝えていくことで「コミュニケーション」能力を磨いてくれたことと思います。

なお、11月23日(土・祝)には、「コロサイコロ2013」を仙台アエルで開催予定です。これは、今年度の1年生による研究成果を報告するものです。現在、発表に向けて熱心に取り組んでおります。ご期待ください!

「小学生のためのサマーカレッジ2013」 8月2日・8月3日の2日間で開催



テーマは「学び、遊び、表現する」。子どもたちに大学ならではの学びと遊びを体験してもらおう総合型のイベントです。今年で3回目の開催となり、仙台市内の被災した子どもたち62名を招待しました。大学生実行委員78名が中心となつてプログラムの運営を行い、始まりの会・表現活動・遊び・ランチ・講座の時間・修了式と特別な2日間を過ごしました。

今年は特別講師に東京工科大学准教授宮元三恵先生をお迎えし、森をイメージ



した表現活動のワークショップを行いました。本学のみどりゆたかなキャンパス内の遊歩道を皆で歩き、木の葉や花、思い思いの材料を自由に使って自分のイメージする「森の不思議な住人」を表現しました。子どもたちそれぞれの「はてな?」や「きれいが見事にあらわれた個性的な「住民」の出現に、大学生や教職員も一緒になって大いに盛り上がりました。

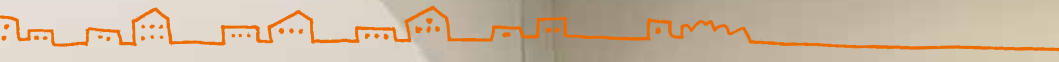
講座の時間では、本学の教授陣が各自の専門性を生かした小学生のための体験型講座を開講しました。子どもたちは科学、生物、歴史、調理、英語等の中から、興味に沿った講座を自ら選び参加し、講義室や芝生、調理室と様々な場所で「学ぶ」という遊びを楽しみました。

お待ちかねのランチの時間には「森のレストラン」

がオープンし、音楽科の学生による弦楽四重奏をBGMに3色バスタや手作りハンバーガーを皆で食べました。

サマーカレッジでは、子どもたちに心の底から楽しめる特別な1日を過ごしてもらい、子どもたちの「日常」を取りもどすお手伝いをしたいという思いから、本学ならではの専門性を活かした「学び」「遊び」「食」「音楽」を融合させた総合的なカリキュラムを提供しています。また、運営に参加する大学生にとつても、「学び」とは何か、子どもの成長に寄り添うとはどのようなことなのかという事を肌で感じとることのできる貴重な機会となっております。宮城学院のサマーカレッジ、来年に向けてますますパワーアップしていきます!





ALFABETO アルファベート
村上典子さん

「英語を話したい」
その未来のビジョンを
応援していききたい



[取材]

広報室インターンスタッフ
山下由佳莉 (心理行動科学科3年)
官野由衣 (心理行動科学科3年)
井筒仁菜 (国際文化学科2年)
長瀬華奈 (国際文化学科2年)
半澤彩花 (英文学科2年)
佐々木明 (心理行動科学科1年)

——大学を出られてどんな職業につかれたのですか？

「海外に行きたい」という想いがあったので、学生時代に外国の方に日本語を教える資格の勉強を始めました。卒業後、日本語教授法を学ぶためにオーストラリアのマッコーリー大学に留学しました。英語力を上げたかったので、現地にいた日本人にも「日本語を話さないで」と伝え、否応なく英語を話さなくてはならない環境を作っていました。

オーストラリアからの帰りにニュージーランドに寄り気に入ってしまった、今度はニュージーランドに来ようと思いました。2年後、Lake District Language School に日本語教師として勤務しました。

——外国の方に日本語を教えるのは難しいですか？

語学だけでなく文化や民俗なども交えて教えていくわけですが、文化的な背景を生徒さんたちの方が持っていて、人生の経験値が足りないと感じながら教えていました。



やりたいという思いを大切にチャレンジして欲しいとアドバイスいただきました。



興味をつなぐために、いかに楽しいレッスンをするか工夫されています。



英語を話すビジョンを共有するためにマンツーマンで教えています。

日本語を日本語で教える直接法を学びましたが、海外では日本語のバックグラウンドの少ない初級者には英語で日本語を教える方が効率がいいですね。私自身もぐつと英語力が上がってきたと思っています。

——それから日本に帰られて英会話教室で講師をされたんですね？

ティーチングの面白さに目覚めていました。大手の英会話教室で12年間英語講師を勤めさせていただきました。

英会話教室では、先生をまとめるリーダーやTOEICセミナー担当講師や学校運営などいろいろなポジションを体験させてもらえました。やり切ったという実感もあり、いよいよ次のステージだなと思えるようになり、自分で英会話教室を立ち上げたわけです。

——現在の英会話教室で大切にされていることは何ですか？

なぜ英語を学びたいか？ 英語を学んだ後どうなりたいか？ 生徒さんのビジョ

ンが伝わり、英語を話しているシーンが共有できると教えるやすいですね。

子どもには寺子屋のような感じでやっています。大きくなってから私の教室が異文化に触れるスタート地点だったと思いついてもらえたらうれしいですね。いかに楽しくレッスンを作るかどうかが、今の私のミッションになっています。

——どんなカタチでチャレンジを続けていくのですか？

次のステージを模索中に震災が起きたこともあり、もしかしたら箱から出た方が希望の人間像に近づけるかなと思えるようになってきました。

新しいことにチャレンジする時は、やはり恐怖心があります。やりたいという思いが恐怖に少し勝った時に行動に移せるのだと思います。

マーク・トウエインは「20年後、やったことより、やらなかったことに後悔するだろう」という言葉を残しました。チャレンジの気持があれば、冒険していきたいですね。

アルファベート(大人部門)

仙台市青葉区上杉1-6-10
仙台北辰ビル SEED21内 9F
○月-木-土 9:00-19:00

英語の寺子屋アルファベート(子供部門)

仙台市泉区将監7-4-6
○金 16:00-19:00

<http://www.alfabeto.jp.com/>

Profile 村上典子さん

1995年3月、英文学科卒。オーストラリアのマッコーリー大学にて日本語教授法を学ぶ。Lake District Language School (NZ)にて、日本語教師として勤務。大手英会話スクールにて、教務主任・スクール運営者として12年間従事。こども英会話講師養成講座・TOEICセミナー担当講師など。2013年、アルファベート・英語の寺子屋アルファベート(子供部門)開校。

サークル紹介 01

ジャズ研究会

- 部員数：16名
- 活動日：基本的に火曜日と日曜日
- 活動場所：練習場所は小ホール、演奏場所はさまざま

手探りの中から新しい可能性を！

私たちは去年の11月から活動を始め、今では部員が16名にまで増えました。楽器を演奏することが好きなメンバーが集まって、楽譜を持ち寄ってセッションをやってみたり、好きな音楽について話をしたりしています。ジャズに出会ったばかりの人もいるので、手探りのところもありつつ、日々努力しています。

今年が初めての大学祭参加。ジャズ喫茶を開くために活動中です。目標は、お客さんがリラックスして時を過ごせるようなすてきなジャズを、生演奏すること！

自由でステキな時間を過ごしませんか？

なぜ今「ジャズ」なのか。その理由の1つは、ジャズが演奏者の自由な創作を中心とした音楽なので、枠の中でいかに自分をかっこよく表現できるかというスリリングな側面を持っているからです。もう1つの理由は、ジャズが人々の生活のBGMとしてよくなじむからです。一休みしているときにおしゃれなジャズが聴こえてきたら、いつもより素敵な時間を過ごせる気がしませんか？

音楽のすべてのいいところがジャズにあるわけではありませんが、自分の音で環境を彩りたい人にとって、ジャズはぴったり!と言えるかもしれません。



セッションが楽しい!



ひとり黙々と練習!



部長
岩川咲也さん
(国際文化学科2年)



みんなを合せて!

サークル紹介 02

チアリーディング部 REDBULLETS

- 部員数：16名
- 活動日：月・火・木 (大会、イベントの前は土曜練習あり)
- 活動場所：大学体育館

仲間を応援しながら競うスポーツ!

今年度は、日本選手権東北地区予選会において、規定演技1位とベストマナー賞をいただきました。ベストマナー賞というのは、大会において、チアリーダーの模範となるような行動をしたチームに贈られる賞です。他のスポーツとは違い、仲間を応援しながら競うスポーツです。他のチームに応援されると元気がでるし、自分が持っている力以上のことが大会でできたりもします。

信頼できる仲間がいるからこそ!

現在、4年生1名、3年生1名、2年生9名、1年生5名で活動しており、とても仲が良いのが自慢です。練習帰りに、温泉に行ったり、サクラボ狩りに行ったりと、練習外でも一緒に行動することが多いです。仲間たちという時間は貴重で宝石のように輝いています。信頼できる仲間がいるからこそ、辛いことでも乗り越えられます。このような大切な仲間に出会えるのも、チアリーディングのいいところだと思います。

大会だけでなく、地域のイベントにも参加し、宮城県をもっと盛り上げていこうと思います。みなさんも一緒に、宮城を盛り上げませんか？



仲間と一緒にいる時間が宝物!



部長
佐藤百花さん
(英文学科3年)

「しごと旅」プロジェクトが
かほく「108」フアンドに採択

国際文化学科・市野澤ゼミの学生が中心となってスタートした「しごと旅」プロジェクトが河北新報社グループによるかほく「108」フアンドの助成事業に採択されました。



を理解できるような体験型の一日ツアーを学生が中心となって企画・運営するというものです。単に楽しむだけでなく、そこで働いている人との交流・対話によって職業観や価値観を形成する早期キャリア教育としても大変意義がある活動です。

映画「先祖になる」を上映

オープンキャンパスが終わった7月27日の夕方、大学講堂で人間文化学会主催「先祖になる」の上映会が行われました。東日本大震災の津波により

壊滅した陸前高田で、息子を亡くしたひとりの男性が自力で自宅を再建するまでの経過を追い続けたドキュメンタリー作品。監督は、中国山西省日本軍残留問題を描いた『蟻の兵隊』（2006年）の池谷薫氏です。

悪天候にもかかわらず来場した100名を超える人々から、映画上映後、大きな拍手が起りました。その後のトークショーでは池谷監督から製作の裏話や率直な想いが語られました。



明日の生き方を考える
セミナー・キャラバン2013 in 山形・in 福島



今年のセミナーキャラバンは、明日の生き方を考えるをテーマに山形県生涯学習センター「遊学館」（8月10日、11日）と、福島市アクティブシテセンター「AON」（8月31日、9月1日）で実施いたしました。このイベントは、女子教育に長い歴史と実績を持つ本学が、将来にについて考えている高校生や、知的好奇心を忘れず学ぶ意欲をもっている大人の方に向けて企画したもので、昨年の山形市での実施に加えて、今年は初めて福島市でも行い、多数の受講者を集めました。

編集後記

今年の夏は、連日30度を超える暑さに「過去に経験したことのない」大雨と、何とも極端な天気でした。それでも、震災後夏の恒例行事となった小学生のためのサマーレッジ、児童・生徒のための「しごと旅」プロジェクト、学びの成果を県内外で一般市民に直接アピールするヨロサイユロ、一般向けの講座と高校生向けのキャリアガイダンスをコンパクトにまとめて地域にお届けするセミナーキャラバンなど、いま地域のために、子どもたちのために、未来のために、学生も教職員もそれぞれの立場で創意工夫を凝らし、自分たちができることは何かを考え、雨ニモマケズ、風ニモマケズ…意欲的な取り組みを展開しています。その一歩一歩が何らかの形で震災からの復興に寄与するものと、私たちは信じています。

(M・F)

公式 facebook ページ <http://www.facebook.com/mgu.ac.jp>

タイムリーな情報発信とグローバルな交流の場を目指し、宮城学院女子大学公式 facebook ページが誕生致しました。ぜひ「いいね!」をクリックしていただき、国内外を問わず交流の場としてご利用下さい。また、災害時には緊急連絡ページとして大学から情報を発信致します。





Letter Essay

さまざまな出会い —宮城学院の精神を訪ねて(5)—

宮城学院の歴史は、日本人キリスト者とアメリカ人宣教師の協力によって1886年9月18日に設立された宮城女学校に始まる——多くの文書は、宮城学院の創立について、このように記している。確かに、日本人キリスト者・押川方義(まさよし)と合衆国改革派(ドイツ)教会から派遣された宣教師・W.E. ホーイとの出会いが無かったなら、宮城学院は存在しなかったに違いない。しかし、われわれは同時に、この二人の出会いを支えるさまざまな出会いがあったことをも忘れてはならない。

1885年12月4日、来日後3日目のホーイは、押川方義と横浜で顔を合わせた。紹介者バラは、ホーイにとっては先輩宣教師であり、押川にとっては信仰の師でもある。押川は、当時、吉田亀太郎と協働して5年前から仙台で伝道に携わっており、仙台基督教会(現・仙台東一番丁教会)の会員数は百名を優に超えていた。しかし、東北地域全体での伝道をさらに進めるためには、人材不足だった。そのためは、日本の青年を教育することが急務だった。押川は熱く語った。他方、ホーイは、所属宣教師からの報告で学校設立の重要性を認識しつつも、来日時点では学校の設置地について定見を持っていなかった。そのため、押川から熱い説得を受けたホーイは、押川と協働して仙台に学校を開校しようと決意したのである。

押川の個人史を遡れば、1875年、医療伝道者パームが新潟における活動の支援者を求めたのに対して、応じたのはただ一人、押川だけだった。そこで知り合った実業家・吉田亀太郎は、故郷・東北地方における伝道を強く要請した。松山藩から選抜されて東京・横浜で学び、新潟で医療伝道に携わった押川は、パームの寛容も与して、仙台に向かったのだった。

宮城学院女子大学 学長 海野 道郎

MG archives

The First School Building and the Students

最初の校舎と在校生

明治25年(1892)

卒業生からノアの箱舟と呼ばれた宮城女学校(現:宮城学院)最初の校舎が完成したのは明治22年(1889)。女子教育に関する認識が低い当時の状況下、宮城女学校がもたらしたものがいかに革新的であったか、卒業生の回顧文から伺うことができる。

「当時外国婦人も珍しく教子の女子で

あったことや、年齢も12,3歳から25,6歳位までが一緒になって教わって居ったことや、質素な小娘の間に華美を尽した県知事令嬢や、何とか官の令嬢が共に学んでおったのでありましたから、仙台の新名物珍風景であったに相違ありませんでした。」

第1回卒業生 武藤ゆき、第3回卒業生 岸波せき

